

## 聴覚特別支援学校における接続助詞の指導

田中 優子\*

聴覚障害児にとって助詞の習得が難しいことは先行研究でも多く指摘されているが、今回は逆接の接続助詞「のに」「けれど」の使い分けをいかに生徒にわかりやすく指導するかを考察した。考察に先立って、生徒に逆接の助動詞の使い分けに関するテストを行ったが、正答率は低く、指導の必要性が再確認された。健聴者であれば、自然に聞き覚えていくであろうことも、聴覚に障害がある生徒には、理論的にインプットしていくような教育上の支援が必要である。その際、細かい複雑な文法上の解釈や規則を説明しても、生徒の理解には限界があり、逆に混乱を招くリスクもある。そうした事情を踏まえ、本研究では、「のに」と「けれど」の互換性について、高等部の生徒に適当な、わかりやすい指導方法や、優先順位をつけた提示の仕方の一例を報告することを研究の目的とする。

キーワード：聴覚障害 接続助詞 「のに」「けれど」

## I はじめに

聴覚障害児の助詞の習得の難しさについては先行研究で多く指摘されているが、主に格助詞についての研究が多い（我妻・菅原・今井，1980；金・伊藤，2010；澤，2000；澤・勝又，2001）。本稿では、逆接の接続助詞「のに」「けれど」「が」の使い分けに注目し、生徒の実態とその指導について報告する。

## II 指導対象

対象となる生徒は、筆者が勤務する聴覚特別支援学校の高等部専攻科の生徒10名（2014年度1年生6名，2年生4名）である。

## III 逆接の接続助詞「のに」「けれど」

「のに」と「けれど」については、その互換性について様々な先行研究があるが（中溝，2003；山口，2006；岡野，2007；畠山，2012等），「のに」と「けれど」の用法全てを一度に提示すると、生徒に混乱をきたすことが危ぶまれるため、まずは二つの接続助詞の互換性が問題になる用法に限定し、分析・指導を行うこととした。

岡野（2007）は、先行研究を吟味した上で、「のに」と「けれど」について、次のような枠組みを示している。

P {ノニ/ケド}, R (PからQが予想/期待される {ノニ/ケド}, 実際にはRである。)

但し、実際の発話ではQは発話されることは少ない。

すでに実現した事態R（ないしは実現が確実な事態R）に対して、話者の予想Qとの相違を指摘し、Rに対する遺憾、受け入れ難さを示す形式。

ここで、岡野（2007）は、Qを「話者の意思」と呼び、話者の予想や期待、意見、さらには希望や意志を含めた話者の考えや思いを包括的に意味する言葉としている。そして、Rを「話者の意思Q」と食い違う対象として捉え、「話者が成立を左右し得ない事態」と考えている。そして、「のに」と「けれど」の相違は、「のに」は「QとRの食い違いを表す」という点から説明できるとしている。本稿は、この岡野（2007）の考え方に従う。しかしながら、複雑な分類全てを生徒に一度に提示しても、生徒は混乱すると考えられる。生徒にどこまで提示するか、また、どのような順番で提示していくかといった優先順位をつけることが教育現場では必要である。

そこで、本稿では、目下生徒が文を作る際に間違いが多く見られる用法を中心に、岡野（2007）の分類のうち、判断がしやすい推論的逆接、一般的対比と純粹対比、Pの存在しない希望・意志Qが前件となる場合の指導方法について考えていくこととする。次にそれぞれの用法について説明する。

### 1 推論的逆接

- この製品は、機能が少ないノニ、値段が高い。
- この製品は、機能が少ないケレド、値段が高い。「機能が少ない」という事態Pから「機能が少なけ

\* 筑波大学附属聴覚特別支援学校

れば、値段が安いだろう」という話者の意思（予想）Qが、「値段が高い」という事態Rと食い違っている。ゆえに、「のに」を使うことができる。

## 2 純粹対比と一般的対比

×北海道は、冬は寒いノニ、梅雨はない。

○北海道は、冬は寒いケレド、梅雨はない。

純粹対比の例である。前件の「冬は寒い」と、後件の「梅雨はない」ことにまったく関連性がないため、Pから導き出されるQと事実Rの食い違いが想定できない対比であり、この場合「のに」は使えないとされる。

○朝晩は寒いノニ、昼は暑い。

○朝晩は寒いケレド、昼は暑い。

一方、こちらは一般的対比の例で、前件「朝晩は寒い」から導き出される「昼は暑くない」という予想Qと事実Rが食い違うことから、「のに」が使える。

## 3 Pの存在しない希望・意志Qが前件となる場合

○旅行に行きたいノニ、お金がないから、行けない。

○旅行に行きたいケレド、お金がないから、行けない。

この場合も、話者の希望・意志Qと事態Rが食い違うため、「のに」が使える。

なお、岡野（2007）では「のに」を使う場合のRを「話者が成立を左右し得ない事態」としており、後件Rに、推論、意志、命令、勧誘などの話者の意思を示す表現がきた場合は「のに」は使えないことにも触れている。このことは他の先行研究でも指摘されており（中溝，2003；岡野，2007；畠山，2012；山口，2006），『日本語文型辞典』（グループ・ジャマシイ，2003）など、文法書などにも記載がある。

本研究では、まずは「のに」がどういう場合に使えるのか使えないのかを「けれど」「が」と比較しながら生徒に示し、わかりやすい説明方法を考えていく。なお、「けれど」と「が」は語用論的な違いはあるものの、文法書でもほとんどの場合に同じように使えるものとして扱われているので、今回は文法的には同じように使えるものとする。

## IV 生徒の実態把握

まずは、生徒の理解度を把握するために、選択式のテストを行った。テストの項目は下記の①～⑩の通りで、正しいと思うものすべてに○を付けるという形式である。このうち、⑥⑦⑧は岡野（2007）の言うところの「一般的対比」であり、それ以外は「推

論的逆接」に該当する用例である。②④⑤⑥は後件に希望・命令・勧誘・推量があるため、「のに」が使えない例であり、それ以外の例ではすべてが使える。

①雨が降っている{のに けれど が}、彼は出かけていった。

②雨が降っている{のに けれど が}、出かけた

い。

③彼女は家が近い{のに けれど が}、よく遅刻する。

④冷めてしまった{のに けれど が}、お茶を飲んでください。

⑤遅くなった{のに けれど が}、今から出かけましょう。

⑥今朝は晴れていた{のに けれど が}、午後から雨になるだろう。

⑦今朝は晴れていた{のに けれど が}、午後から雨になりました。

⑧あの中国人は日本語はあまり上手でない{のに けれど が}、英語はうまい。

⑨合格すると思っていた{のに けれど が}、不合格だった。

⑩和子さんには来てほしかった{のに けれど が}、来てくれなかった。

結果をTable1にまとめた。生徒の回答は、「のに」

はn、「けれど」はk、「が」はgで表した。また、生徒の正解した箇所は太字で示した。

Table1 「のに」「けれど」「が」のテスト結果

生徒	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
F21	kg	k	kg	g	<b>kg</b>	k	nk	n	k	n
F22	kg	g	ng	g	g	<b>kg</b>	kg	kg	ng	ng
M21	ng	<b>kg</b>	ng	k	g	g	kg	ng	k	g
M22	kg	k	g	g	g	<b>kg</b>	nk	n	nk	g
F11	n	k	n	g	g	k	n	k	n	n
F12	nk	<b>kg</b>	nk	<b>kg</b>	<b>kg</b>	<b>kg</b>	ng	<b>nkg</b>	<b>nkg</b>	<b>nkg</b>
F13	<b>nkg</b>	<b>nkg</b>	<b>nkg</b>	<b>kg</b>	<b>kg</b>	<b>kg</b>	kg	<b>nkg</b>	<b>nkg</b>	<b>nkg</b>
M11	n	k	n	g	k	g	k	g	n	g
M12	kg	n	n	<b>kg</b>	g	n	g	<b>nkg</b>	n	ng
M13	ng	nk	ng	n	k	k	g	k	ng	ng
正解	nkg	kg	nkg	kg	kg	kg	nkg	nkg	nkg	nkg
正答率	1/10	2/10	1/10	3/10	3/10	4/10	0	3/10	2/10	2/10

テストの結果、全問正解者はおらず、正答率も低い。正答が多い生徒と少ない生徒もはっきり分かれている。また、生徒の間違え方を見ると、「のに」が使えない②④⑤⑥で「のに」を選んだ生徒は特定の生徒（M12, M13, F13）のみで、あとは「のに」

「けれど」「が」全てが使えるのに、「のに」のみを選ぶなど、不適格なものは選ばないが、適格なもの全てが選ばないという間違え方だった。

## V 指導方法

では、どう指導すれば生徒にわかりやすいか。上記Ⅲでまとめた1~3の分類や説明をそのまま生徒に提示しても、生徒には難しすぎると考えられるため、敢えてこれらは示さず、もっと平易な表現を使って説明することにした。また、現時点で提示している用例は、すべて「けれど」「が」は使えるものなので、「のに」が使える場合と使えない場合について説明し、「けれど」「が」はどの場合でも使えると説明した。

### 1 具体的な指導方法と板書例

まず、生徒の気付きを促すため、生徒には「のに」を使うことで話者のどのような気持ちが表されるかという質問をした。すると、生徒の多くが「予想と違う」「期待と違う」などと答えた。そこで、まず、生徒には例を示しつつ、前件（『のに』より前の部分）で予想・期待したと違う結果になったことに話者が意外だと感じる気持ちが表されると説明し、次のように板書した。

#### 板書

例1: この製品は、機能が少ない（ ），値段が高い。

機能が少ないことから値段が安いことを予想。

→ しかし、値段が高かった。

→ 意外

→ 「のに」が使える。

生徒が「のに」の使い方や意味を納得したところで、「けれど」「が」の例も並べて板書し、「けれど」「が」の場合は、「のに」のように話者の意外な気持ちは含まれないと説明した。さらに、例1のように、話者の予想と異なる結果になった場合、この結果は話者が決めることはできないと説明した。

ここで、②の例を板書し、「のに」が使えない場合について説明した。

#### 板書

話者の意志←話者が決められる

②×雨が降っているのに、出かけたい。

○雨が降っているけれど、出かけたい。

○雨が降っているが、出かけたい。

このように、話者が決められることについては、「けれど」「が」は使えるが、「のに」は使えないと説明した。そして、テストの①~⑨までの問題

で前件と後件の内容に注目させ、話者の予想が存在するか、また、それが結果と異なるかどうかを確認した。④⑤⑥は「のに」が使えない例なので、後件が話者に「決められる」という答えを生徒から引き出した上で、だから「のに」が使えないと説明した。

次に、⑩の例のように、結果が話者の「期待」に反していた場合も例1と同様に「のに」が使えると説明し、他にも話者の「希望」に反した結果になった場合も「のに」が使えると説明し、例2を提示した。例1と⑩は、上記Ⅲ1の「推論的接続」に分類される例で、例2はⅢ3「Pの存在しない希望・意志Qが前件となる場合」の例である。しかし、授業では、この二つを分けて提示するのではなく、話者の予想や期待、希望など、話者が考えていたことと違う結果になった場合に「のに」が使える、という説明でまとめて提示した。

#### 板書

例2: 旅行に行きたかった（ ），お金がなくて、行けなかった。

話し手には「旅行に行きたい」という希望があった。

→ お金がなくて、行けなかった。

→ 失望（がっかり）

→ 「のに」が使える。

このように、「予想」ではなく、「希望」に反していたことで話者は失望したわけだが、話者が考えていたことと違う結果になったので、「のに」が使えると説明した。

ここで続けて次のような例文を提示し、例2の「行けなかった」と例3の「行かなかった」の違いに注目させ、②と同様に、話者が決められることについては「のに」が使えないと説明した。

#### 板書

例3: ×旅行に行きたかったのに、お金がなくて、行かなかった。話者の意志←話者が決められる

次に、上記Ⅲ2の「純粹対比」と「一般対比」について次の例4, 5のように続けて説明した。

#### 板書

例4: 今朝は寒かった（ ），昼は暑くなった。

今朝寒かったことから、昼も暑くならないと予想。

→ しかし、昼は暑かった。

→ 意外

→ 「のに」が使える。

## 板書

↓関連がない↓

例5: 北海道は、冬は寒い( ), 梅雨はない。

北海道の冬が寒いことと、梅雨がないことはつながらない。

→ 冬が寒いことから何かを予想して「梅雨がない」とつなげることはできない。

→ 「のに」は使えない。

例5のように、前件と後件の関連性がない場合は「けれど」「が」は使えるが、「のに」は使えないと説明した。

## 2 「のに」が使える場合のポイント

以上のように、今回生徒に提示した「のに」「けれど」「が」の用法に関しては、その使い分けのポイントを次のように絞って指導することで、生徒の理解を助けられると考える。

- 話者が予想・期待したり希望したりしたと、結果・事実が異なる。
- そのことに対して、話者の意外・残念といった気持ちが表れる。
- 結果や事実を話者が決定することができない。
- 前件と後件に関連性がある。

## VI 成果

上記のような方法で生徒に説明した後、1年生の6名に対して「のに」「けれど」について○×式の問題をテストで出して確認したところ、全員が正解だった。その後、生徒の理解の定着度を確認するために、およそ一月後に「のに」が使える例と使えない例をそれぞれ一文ずつ書かせたものを次に挙げる。

生徒1 ○11月30日に神奈川県で遊びたいのに期末テストなので行けません。

×私は19歳なのにA先生は50歳だ。

生徒2 ○高いペンは3~5年くらい使えるのに、すぐに壊れた。

×中古車は壊れやすいのに僕は貧乏だった。

生徒3 ○今日は美術館に行こうと思っていたのに休館だった。

×蚊にさされててがかゆいのにムヒをぬらないでおこう。

生徒4 ○バレーボールがやりたいのに体育館が工事のため使えない。

×私はゲームが苦手なのに、あの子はゲームが得意だ。

生徒5 ○今日は普通の練習なのに、他校との試合でした。

×ジャイアンは力が強いのに、のび太君は力が弱い。

生徒6 ○この勉強は難しいと思っていたのに簡単だった。

×友達と約束していたのに他の友だちと遊びたい。

○の例文に関しては全員が概ね正しく書けている。  
×の例文に関しては生徒1, 4, 5の例文はV2のdが成り立たない例であるが、生徒4と5の例文は「ジャイアン」と「のび太君」、「私」と「あの子」との関係次第では成り立つことも説明した。どちらも「同じ小学生だが」などと補足すれば成り立つ文になる。生徒3と6の例文はV2のcに反している例である。生徒2も前件と後件の関連性がない例と言えるが、これは全く関係がない二つの事柄であり、良い例文とは言えない。が、「のに」が使える場合と使えない場合の区別はできており、生徒2は今回の単元を学び始めた当初に比べると明らかに理解と進歩が見られた。全体として、逆接の接続助詞の使い分けについては成果があったと評価できる。

## VII おわりに

今回は接続助詞「のに」と「けれど」「が」との使い分けについて、生徒にいかにわかりやすく提示するかを考察し、実践した。今回は目下生徒が作文する上で間違いが多い用法を中心にその使い分けの指導法を考えたが、それ以外の用例を今後どの程度、どのような形で提示していくか引き続き考えていきたい。

## 参考文献

我妻敏博・菅原廣一・今井秀雄(1980) 聴覚障害児の言語能力(Ⅲ) —うけみ・やりもらい文の理解—。国立特殊教育総合研究所研究紀要, 7, 39-47.

グループ・ジャマシイ(2003) 日本語文型辞典。くろしお出版, 472.

畠山 衛(2012) 日本語学習者による原因・理由を表す接続助詞「から」「ので」の語用論的使い分け能力の習得を探る横断的研究。ICU日本語教育研究, 8, 3-16.

金 銀珠・伊藤友彦(2010) 日本と韓国の聴覚障害児の格助詞「に」に関する統語知識。東京学芸大学紀要 総合教育科学系I (61), 213-219.

中溝朋子(2003) いわゆる逆接のケドとノニの互換性について。大分大学教育福祉科学部研究紀要, 25 (1), 87-96.

- 日本語教育学会（1990）日本語教育事典．大修館書店，444.
- 岡野ひさの（2007）いわゆる逆接のノニは何を表すか．日本語文法，7（1），くろしお出版 69-86.
- 澤 隆史（2000）聴覚障害児の文産出における格助詞誤用と動詞の自他—「が」と「を」の混同を中心に—．東京学芸大学紀要 I 部門（51），179-184.
- 澤 隆史・勝又 直（2001）聴覚障害児の作文における文の統語的・意味的特徴—聾学校児童と生徒の比較から—．東京学芸大学紀要 I 部門（52），177-183.
- 谷部弘子（1990）「のっけちゃうからね」から「申しておりますので」まで．女性のことば・職場編，大修館書店，139-154.
- 谷部弘子（1990）「から」と「ので」の使用にみる職場の男性の言語行動．男性のことば・職場編，大修館書店，133-148.
- 山口 薫（2006）逆接の「のに」を使った文の分析—外国人留学生の書いた文章を対象として—．南山大学国政教育センター紀要 7，13-20.

## Teaching Method of Conjunctive Particles in the Special Needs Education School for the Deaf

Yuko TANAKA\*

---

\* Special Needs Education School for the Deaf, University of Tsukuba